

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 8 年 1 1 月調査結果 - -

(平成 1 8 年 1 2 月 1 日)

調査期間：平成 1 8 年 1 1 月 1 7 日 ~ 2 4 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 8 9 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 0 製造業 6 2 2 卸売業 2 3 4
小売業 7 3 9 サービス業 6 1 4

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題など

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

業況D Iのマイナス幅は縮小も、暖冬予想や仕入コスト高の影響あり

11月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（25.2）よりマイナス幅が0.7ポイント縮小して24.5となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

産業別の業況D Iは、建設、卸売でマイナス幅が拡大したものの、他の3業種で縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好転、売上好調、消費回復、先行き期待という声が寄せられている一方、公共事業の減少や競争激化、暖冬予想の影響等による消費の低迷など業況低迷、仕入コストの上昇による採算悪化、先行き不透明感を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「大規模な設備投資が行われることになっており、受注が増加傾向にある」（電気工事）との声がある一方、「公共工事の発注は来月までがピークで、その後は減少する見込みであり、民間工事も上向きではあるものの、採算は低迷している」（管工事）、「公共工事は発注量が減少しているため競争が激化しており、赤字受注が増加している」（土木工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「仕入コスト上昇が落ち着くとともにこれまでの上昇分も価格転嫁できると判断し、仕入単価は不変、採算は好転とした」（一般産業用機械製造）との声がある一方、「受注量が減少傾向にあり、先行きも減少すると見込んでいる」（鉄素形材製造）とのコメントのほか、「原材料のうち、特にステンレスの仕入価格が依然として上昇しており、売上減少と相まって、業況は悪化する見込み」（通信機械器具製造）と、仕入コスト上昇による先行き不安を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「11月上旬、近隣に惣菜やお弁当を販売する店舗が開店したため、得意先となれば売上や採算が好転すると思われる」（食料・飲料卸売）との声がある一方、「インターネット通信販売の広がりにより当業界の業況は依然として厳しく、好転材料に乏しい」（衣服・日用品卸売）とのコメントのほか、「売上は確保できていても採算が悪化している企業が見受けられ、一部では減少した従業員を補充できない例もある」（農畜産水産物卸売）と、従業員の採用もままならない状況を訴える声が寄せられている。

【小売業】では、「おせち料理やポージョレ・ヌーボーの販売実績が昨年を大きく上回っている」（百貨店）との声がある一方で、「暖冬予想の影響で衣料品を中心とした冬物商品の出足が今一歩であり、年末商戦は法人需要の低迷を予想している」（百貨店）、「昨年と比べて気温が高いせいか防寒具の売れ行きは鈍く、先行きも不安を感じている」（商店街）と、暖冬予想の影響による冬物商品の売上低迷を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「客室はフル稼働状態で業況は前年同月比で好転しており、年末年始を迎えることから先行きも明るいと考えている」（旅館）との声がある一方で、「年末年始を迎えて忘年会や新年会の予約が入ると見込んでいるが、例年、宴会規模の縮小、客単価の下落に見舞われており、過度な期待はできないと考えている」（食堂・レストラン）とのコメントも寄せられている。また、「燃料価格は若干の下落傾向にあるが、再び上昇する可能性もあると考えており、しばらくはその動きを注視する必要がある」

(その他サービス)と、仕入コスト再上昇への不安を訴える声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が0.5ポイント拡大して17.1となり、2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値は製造でプラス幅が拡大しサービスでマイナス幅が縮小したものの、他の3業種でマイナス幅が拡大した。

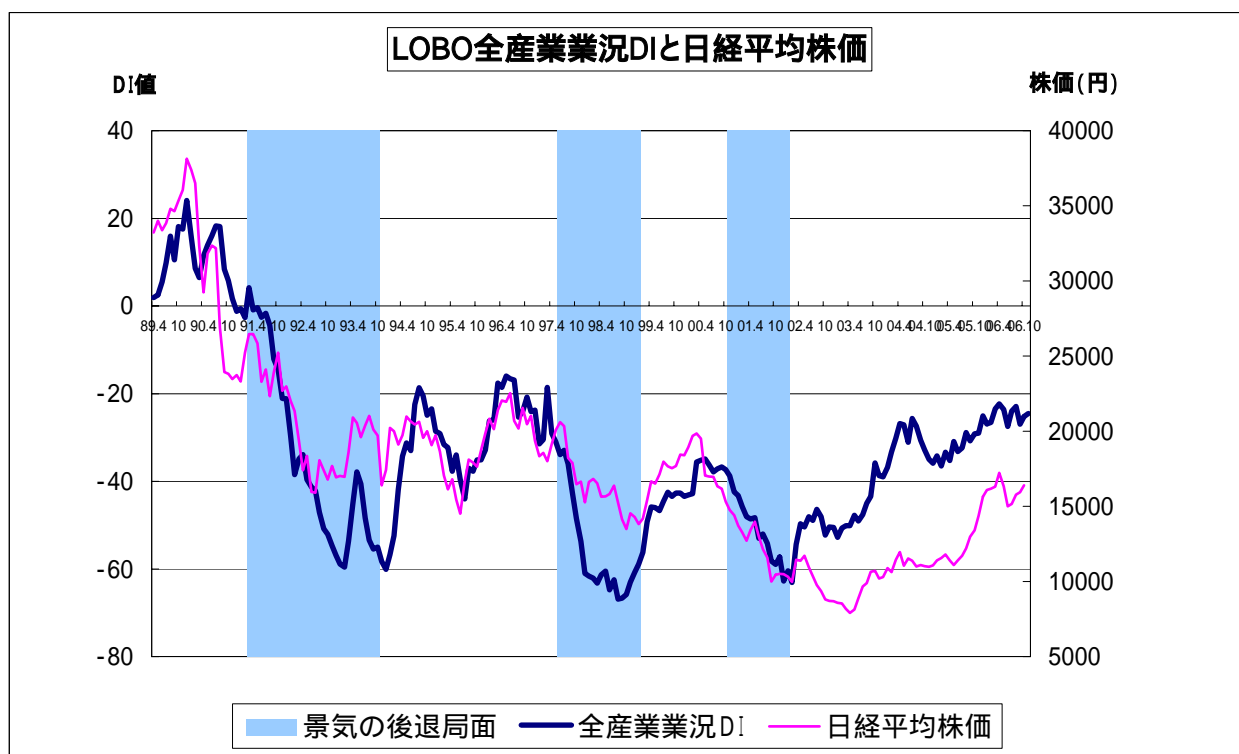
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が1.5ポイント縮小して24.6となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、卸売、小売で拡大したものの、他の2業種で縮小した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が2.6ポイント弱まって16.6となり、3カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、DI値の悪化超感サービスで強まったものの、他の4業種で弱まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が2.7ポイント弱まって24.4となり、3カ月連続で弱まった。産業別にみると、DI値の上昇超感建設、製造で強まったものの、他の3業種で弱まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、過剰超感から不足超感に転じて0.4となった。産業別にみると、DI値は卸売で過剰超感が強まり小売で不足超感が弱まる一方、建設で過剰超感が弱まり、製造、サービスで不足超感が強まった。

向こう3カ月(12月~2月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が19.9と、昨年同時期の先行き見通し(22.6)に比べて改善している。



【業況についての判断】

11月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 25.2 ）よりマイナス幅が0.7ポイント縮小して 24.5 となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

産業別にみると、建設、卸売でマイナス幅が拡大したものの、他の3業種で縮小した。

向こう3カ月（12月～2月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 19.9 と、昨年同時期の先行き見通し（ 22.6 ）に比べて改善している。

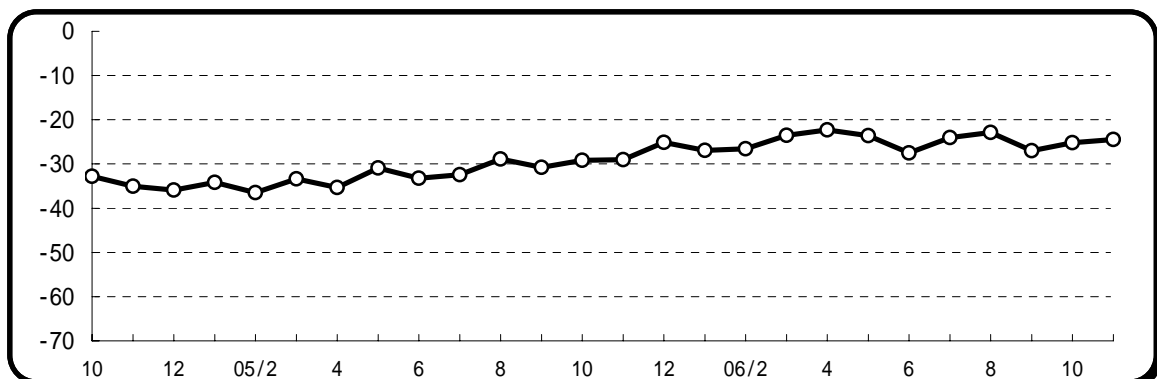
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、建設でマイナス幅が拡大しているものの、他の4業種で縮小している。

業況D I（前年同月比）の推移

	18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	27.5	24.0	22.9	27.0	25.2	24.5	19.9 (22.6)
建設	44.1	36.5	34.8	43.1	38.1	39.6	37.8 (33.2)
製造	16.1	8.3	12.8	14.3	13.4	11.3	14.8 (17.6)
卸売	31.5	31.8	30.5	32.9	34.4	36.6	23.0 (25.0)
小売	23.4	22.4	19.7	22.0	23.1	22.8	15.8 (21.4)
サービス	32.5	31.4	26.7	33.3	28.1	25.7	17.4 (21.7)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年11月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.5ポイント拡大して17.1となり、2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値は製造でプラス幅が拡大しサービスでマイナス幅が縮小したものの、他の3業種でマイナス幅が拡大した。

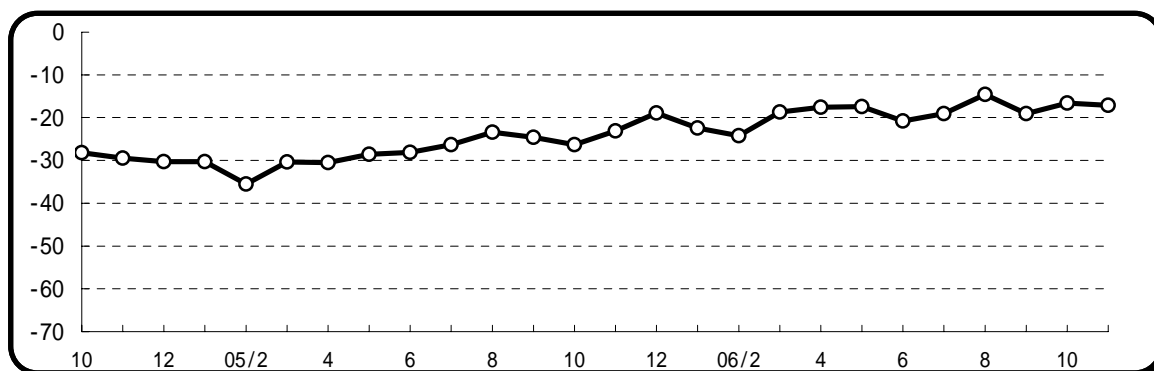
向こう3カ月(12月～2月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が12.9と、昨年同時期の先行き見通し(15.5)に比べて改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、全業種でマイナス幅が縮小している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	20.8	19.1	14.6	19.1	16.6	17.1	12.9 (15.5)
建設	38.3	30.9	28.9	34.4	29.6	32.4	30.2 (35.1)
製造	2.3	3.2	3.7	4.8	1.2	2.9	8.4 (8.9)
卸売	23.5	25.5	19.5	20.9	22.9	30.7	15.1 (19.1)
小売	23.4	20.9	14.9	18.3	17.0	20.7	9.5 (12.7)
サービス	25.4	23.4	14.9	23.7	23.8	18.3	9.8 (11.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が1.5ポイント縮小して24.6となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、卸売、小売で拡大したものの、他の2業種で縮小した。

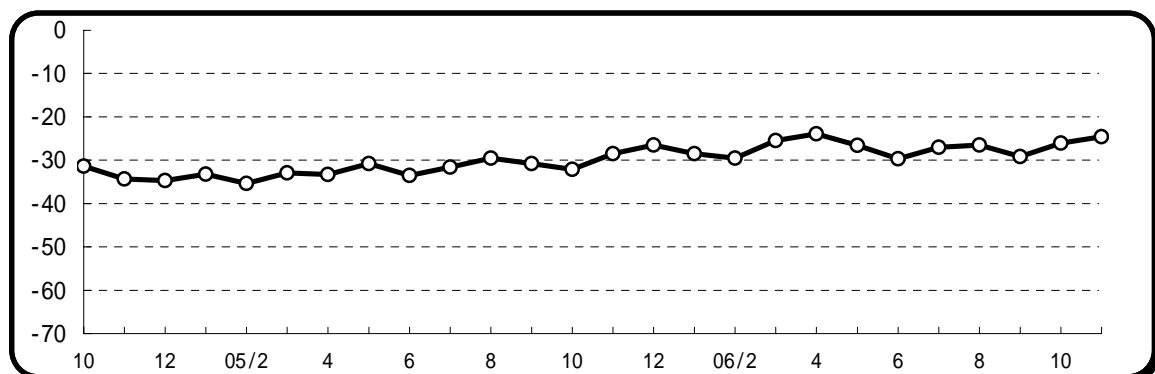
向こう3カ月(12月～2月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が18.5と、昨年同時期の先行き見通し(21.5)に比べて改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売でマイナス幅が拡大しているものの、他の4業種でマイナス幅が縮小している。

採算D I (前年同月比) の推移

	18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全産業	29.7	27.0	26.5	29.2	26.1	24.6	18.5 (21.5)
建設	46.6	37.1	39.8	45.2	42.0	43.8	35.3 (35.8)
製造	24.3	17.9	23.6	25.9	21.7	16.2	16.7 (19.5)
卸売	26.5	32.5	25.6	22.8	29.3	29.4	19.9 (16.4)
小売	26.1	23.0	18.5	20.6	18.7	19.1	11.2 (17.2)
サービス	30.4	32.6	31.3	34.9	27.8	25.5	18.0 (21.2)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	18.3	17.7	16.9	18.5	19.2	16.6	16.5 (15.9)
建設	34.1	28.9	27.6	30.3	30.8	27.3	30.0 (28.4)
製造	12.4	10.9	11.8	13.3	15.2	12.7	13.9 (14.5)
卸売	17.4	15.8	14.6	11.4	18.2	14.5	13.9 (11.3)
小売	13.6	15.0	13.3	14.4	16.2	12.5	11.8 (13.1)
サービス	19.6	21.8	20.3	23.7	18.7	18.9	17.1 (14.4)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が3カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、サービスで悪化超感が強まったものの、他の4業種で弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、製造、小売で悪化超感が弱まるものの、他の3業種では強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	27.1	28.5	31.2	30.0	27.1	24.4	18.6 (16.6)
建設	37.4	38.6	42.0	35.1	34.2	35.6	26.2 (23.3)
製造	41.3	42.3	45.6	47.6	40.7	41.4	28.2 (26.2)
卸売	27.2	36.9	36.0	36.7	34.4	24.2	21.1 (7.3)
小売	13.5	14.3	16.0	14.8	12.7	10.9	10.5 (8.8)
サービス	21.8	21.2	25.5	24.4	23.0	16.3	12.8 (14.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が3カ月連続で弱まった。産業別にみると、建設、製造で上昇超感が強まったものの、他の3業種で弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみると、サービスで上昇超感が弱まるものの、他の4業種では強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12~2月
全産業	2.1	1.4	0.5	1.1	0.2	0.4	2.0 (2.6)
建設	19.0	18.2	17.1	16.4	14.7	13.4	14.0 (17.0)
製造	1.8	0.7	3.2	0.2	1.9	3.2	4.0 (5.6)
卸売	4.9	8.9	7.3	5.7	3.2	3.3	6.8 (4.5)
小売	5.4	6.6	5.4	4.7	5.9	5.5	3.6 (4.4)
サービス	0.2	1.0	2.0	2.5	1.2	1.7	3.2 (2.3)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

- 【前年同月比 D I】全産業合計は過剰超感から不足超感へ転じた。産業別にみると、卸売で過剰超感が強まり小売で不足超感が弱まる一方、建設で過剰超感が弱まり、製造、サービスで不足超感が強まった。
- 【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、卸売で過剰超感が強まり小売で不足超感が弱まる一方、建設、製造で過剰超感が弱まり、サービスで不足超感が強まる見通し。

【平成18年11月の景気キーワード】

回復への動き

各業種から、業況好転、売上好調、消費回復、先行き期待という声が寄せられている。「高級素材が好評でヨーロッパからの引き合いもあり、昨年同月比で業況は若干ではあるが好転していると言える」(米沢・織物製造)「原油価格高騰が落ち着き仕入コスト上昇傾向に歯止めがかかったのに加え、市が支出する助成金の活用により設備投資も活発化している」(相模原・金属加工機械製造)とのコメントが寄せられている。また、「納品価格引き下げ要求を受けているものの、ホームセンター向けの売上は昨年同月と比べて好調に推移している」(三木・他の卸売)「鍋料理の材料の売上が伸び始めるとともに、クリスマスやお歳暮向けギフトも好調」(草津・百貨店)との声のほか、「業況好転への動きがわずかに見え始めており、今後、年末年始の忘年会や新年会の予約に期待している」(西条・食堂・レストラン)とのコメントも寄せられている。

悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き公共工事の減少や競争激化、消費の低迷など業況低迷、借入金利の上昇、仕入コストなど経費の増加による採算悪化を訴える声も寄せられている。建設、製造からは「本県の建設業界は公共事業が頼りだが、今後も予算の減額が見込まれており、当分は厳しい状況が続く」(甲府・一般工事)「繁忙期に入り売上高は伸びているが、借入金利の上昇や燃料費高止まりなどコスト増加が懸念される」(土別・セメント・製品製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは、「コンビニエンスストアの増加により得意先である地元の小売店舗の閉店が続いているため、売上高が減少している」(土佐清水・食料・飲料卸売)「暖冬予想の影響を受け、冬物衣料の売上が今ひとつといった感を受けている」(豊橋・商店街)「インターネット経由の予約増加による手数料などコスト負担が多くなっており、宿泊料金への転嫁を考えているが、現状では難しい」(福山・旅館)とのコメントが寄せられている。

暖冬予想の影響

また、暖冬予想による生産・売上の低迷を訴えるコメントが寄せられている。製造からは、「円安に伴い中東向けを中心に輸出は好調だが、内需は気温が下がらず秋冬物衣料品の受注で苦戦している」(金沢・織物)「例年と比較して気温が高く、冬物商品の動きが低調のまま推移している」(帯広・各種商品卸売)との声が寄せられている。また、小売からも「暖冬予想の影響を受け、防寒具など冬物衣料品の売上が伸びず、仕入コストだけが少しずつ上昇しているように思う」(ひたちなか・商店街)「例年に比べて気温が高く暖冬になる気配が感じられるため、業況は衣料品の売上を中心にやや不振と判断している」(小野・百貨店)「大型店舗の新規出店や例年よりも高い気温の影響を背景に、秋冬物の衣料品の売上が減少している」(鹿児島・百貨店)といったコメントが寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
18年 9月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
10月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
11月	回復への動き	悪化への懸念	暖冬予想の影響

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iともに2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「大規模な設備投資が行われることになっており、受注が増加傾向にある」(電気工事)との声がある一方、「公共工事の発注は来月までがピークで、その後は減少する見込みであり、民間工事も上向きではあるものの、採算は低迷している」(管工事)「公共工事は発注量が減少しているため競争が激化しており、赤字受注が増加している」(土木工事)「原油価格高騰の影響を受けて受注量が減少しており、経費削減の観点から不要な機材を売却する動きが見られる」(土木工事)といった声も寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D Iともに2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「仕入コスト上昇が落ち着くとともにこれまでの上昇分も価格転嫁できると判断し、仕入単価は不変、採算は好転とした」(一般産業用機械製造)「受注、売上ともに増加した。販売価格が満足できる水準まで改善する日も近い」(他の輸送用機器製造)との声がある一方、「受注量が減少傾向にあり、先行きも減少すると見込んでいる」(鉄素形材製造)「原材料のうち、特にステンレスの仕入価格が依然として上昇しており、売上減少と相まって、業況は悪化する見込み」(通信機械器具製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上D Iは3カ月連続、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「11月上旬、近隣に惣菜やお弁当を販売する店舗が開店したため、得意先となれば売上や採算が好転すると思われる」(食料・飲料卸売)との声がある一方、「インターネット通信販売の広がりにより当業界の業況は依然として厳しく、好転材料に乏しい」(衣服・日用品卸売)「売上は確保できていても採算が悪化している企業が見受けられ、一部では減少した従業員を補充できない例もある」(農畜産水産物卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上・採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「おせち料理やポージョレ・ヌーボーの販売実績が昨年を大きく上回っている」(百貨店)「大型店出店の影響が薄れ始めて売上が回復しつつあり、周辺人口の増加も見込めるため、先行き見通しは明るい」(その他の小売)との声がある一方、「暖冬予想の影響で衣料品を中心とした冬物商品の出足が今一步であり、年末商戦は法人需要の低迷を予想している」(百貨店)「昨年と比べて気温が高いせいか防寒具の売れ行きは鈍く、先行きも不安を感じている」(商店街)「地方経済に回復感はなく、個人消費も縮小傾向にあり、商店街を取り巻く経営環境は厳しさを増すばかり」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況・採算D Iは2カ月連続、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「客室はフル稼働状態で業況は前年同月比で好転しており、年末年始を迎えることから先行きも明るいと考えている」(旅館)、「今後、冬が深まるにつれて、売上が約1割増加すると見込んでいる」(公衆浴場)「軽油価格がようやく下落に転じた」(運送業)との声がある一方、「燃料価格は若干の下落傾向にあるが、再び上昇する可能性もあると考えており、しばらくはその動きを注視する必要がある」(その他サービス)「年末年始を迎えて忘年会や新年会の予約が入ると見込んでいるが、例年、宴会規模の縮小、客単価の下落に見舞われており、過度な期待はできないと考えている」(食堂・レストラン)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北陸信越、近畿でマイナス幅が拡大したものの、他の7ブロックで縮小した。なお、全ブロック合計は2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

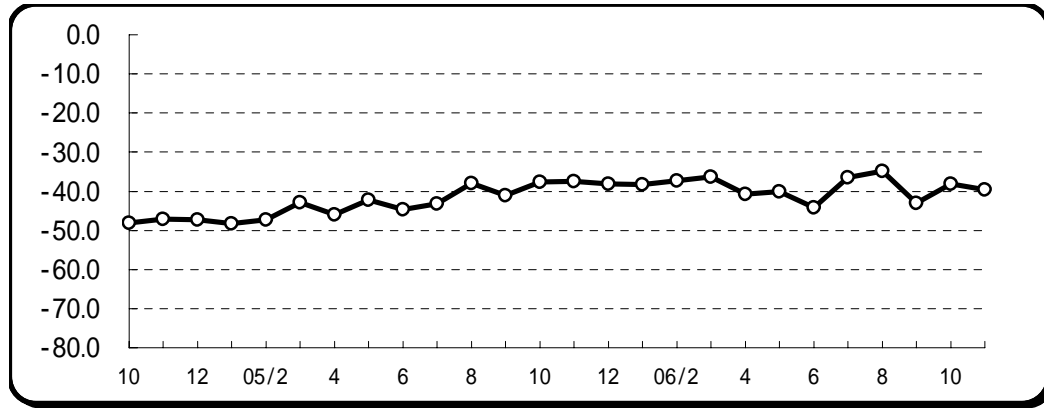
ブロック別の向こう3カ月（12月～2月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、近畿、中国、四国で悪化したものの、他の6ブロックで改善した。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

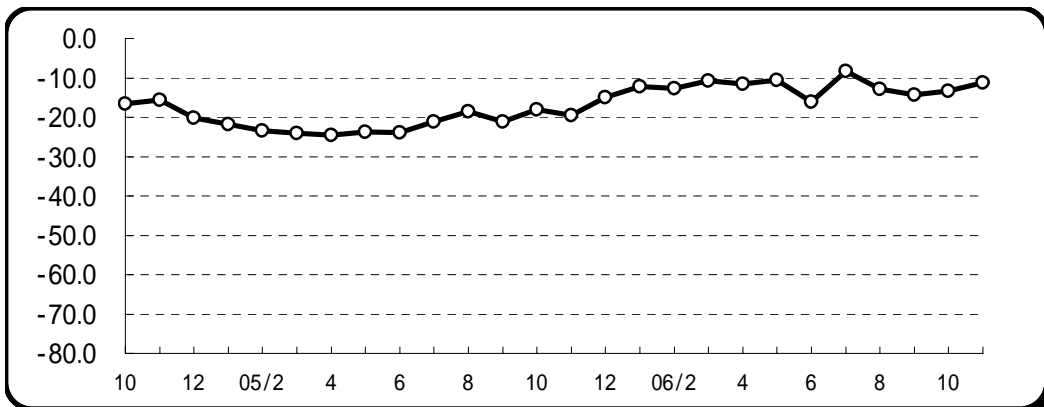
	18年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12～2月
全 国	27.5	24.0	22.9	27.0	25.2	24.5	19.9 (22.6)
北海道	36.2	20.4	30.6	28.6	30.2	26.4	21.7 (25.5)
東 北	33.8	22.4	24.8	33.6	27.7	24.5	24.5 (31.7)
北陸信越	25.1	20.8	13.7	18.1	10.6	16.5	16.5 (20.3)
関 東	22.6	21.6	15.2	24.3	25.2	23.1	13.6 (16.3)
東 海	22.6	17.9	24.2	22.5	20.6	15.6	18.0 (27.7)
近 畿	28.5	30.1	29.4	29.4	24.9	34.4	31.4 (27.0)
中 国	31.9	30.0	25.9	34.3	37.8	29.4	23.0 (21.0)
四 国	40.0	38.1	35.7	36.9	35.3	32.1	23.4 (22.2)
九 州	21.0	19.1	20.7	24.2	22.8	19.8	13.2 (20.0)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

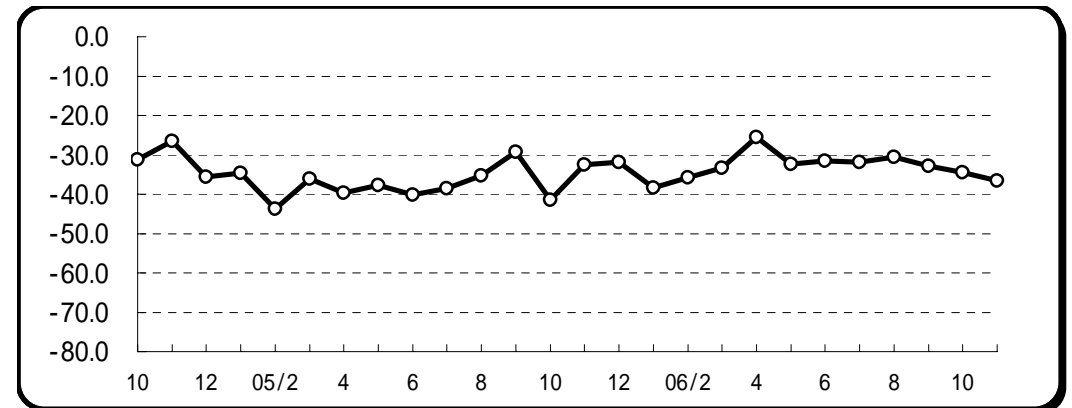
建設業



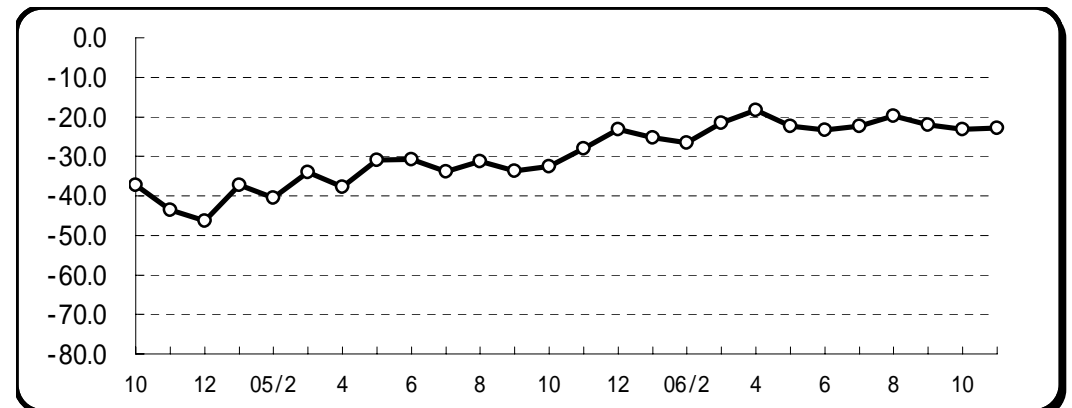
製造業



卸売業



小売業



サービス業

